

Q4-3：今、この地域で必要とされていることは何でしょうか。活動分野に関わらずご意見をお聞かせください。

PCR 検査をすればストレスは緩和すると思う。

日本全体で言えることですが、日本のメディアだけでなく、海外で発信されている情報も取るようにするべきと思っています。

自助、共助

県外活動自粛して感染者を出さない事が大事だと思ってます。

子どもたちが安心して活動できる家以外（特に屋外）の場所の確保及びその適切な運営の仕組み

高齢者が多くなり、自治会活動の担い手が少なくなった。日常の自治会活動はできているが、防災などの緊急対応力が弱くなっており、地域の実情にあった活動方法を見直す必要がある。

スポーツを軸とした地域交流

人を攻撃しなくても済むように新型コロナウイルスの正しい情報(対策方法や注意すべきことなど)

松阪市の観光資源の有効活用やイベント開催による知名度の向上、観光客誘致の為の行政の積極的な関わりが必要ではないでしょうか。

感染者が出ていないこの時期こそ、PCR 検査や医療体制を充実してほしいと思います。

行政が中心となって正しい知識、正しい情報が伝わるような仕組みが必要。デマ、誤報が多すぎますね。

うちは困ってない。困ってる団体に厚く支援をして差し上げてください。

子供（次世代）の育成を大事にしようとする視点の構築

医療従事者への物資等の支援

正しい感染予防
在宅療養者への十分な支援
人材不足

適度な緊張感を保ちつつ、各団体が「活動しても良いんだ!!」と思えるきっかけがあれば、再開しやすいのに...と思っています。

感染防止策を講じた上での慎重な活動調整・実行

詳細は情報の発信と市民へ安心

学童系、福祉サービス会、介護系 NPO の負担軽減、支援。

無料 Wi-Fi、リモートワーク技術の整備

ここ数年、三重、松阪では活動しておりません。また機会がありましたらよろしくお願ひします。

※いつもアイデアとユニークな企画楽しみにしています！

観光事業の促進

自粛解除

日本人の観光客も減っており、日本人／外国人を問わず、元の依頼人数までいかに戻すか、市役所観光課／観光協会と一体となった対応必要。

大切なものは何か、を見つめ直すこと

●コロナの第二波・第三波・・・が来た時、医療を安心して受けることができる体制づくり

●今後、緊急事態宣言中に大災害が起こって

避難所生活を送らなければならない場合をも想定した体制づくり

検討付かず

特になし。

ボランティア団体同士の情報共有ができていないのが現状です。市としてどのような構想があるのかに基づいた計画を教えていただくと共に、小さい団体同士が繋がれるようなシステムの構築をお願いします。

来年度のとこわか国体、とこわか大会に向けた取り組みを全体的に総括して、発信してほしいです。

よろしくお願いします。

相手は細菌です。よって、地域だけではありませんが、一人一人が免疫力を高める努力が必要で

オンラインが広がっていることで、いろんな世界が手軽に見ること繋がることができます。そのおかげで「参考」になることもたくさん。

「外」からのインプットで視野が広がると共に、地域という「内」へのアウトプットも大切になると思っています

地域でさまざまな活動されているグループ、団体とのつながりをもっとキャッチしやすく、そしてお互いが何かしらのリンクされていくといいなあと思います。

いつもいろいろな情報ありがとうございます!!

継続している団体が存続できず解散してしまうことがない様、

各団体さんの困りごとをシェアしてみなさんで意見や提案を

出し合えたらよいのでは。

横のつながりをつくるきっかけになると思います。

今回、コロナで活動を休止することになりましたが、

休止期間に活動内容を見直したりスタッフが負担にならず運営していく方法を

検討したりできたので、当団体にとっては貴重な時間になりました。

PC環境が難しい団体もあると思うので、発信の媒体を提供したり、

相談にのってあげていただけたらよいと思います。

新型コロナウイルス第二派に対する備えや情報提供・共有が必要だと思います。

シャッター通りを無くす「町おこし」が重要と思える。

人と人とのコミュニケーションが最近とくに出来ない人が多いのは残念です。人に会ったら「こんにちわ」とか言えずに通っているのでこれだけでも何とかしたいと思っています

はり、きゅう、マッサージを生業としている人の収入が激減しているのです、それをカバーする施策がしりたい。

・私たちの活動は、クライアントに対しては1：1の関係です。又会員同士の勉強では現在毎月定例会で研鑽し、隔月には講師を招いての勉強を行っています。そのために特に独居老人に対して訪問が出来なくなるのは本当に心配でもあり、つらいことです。

各人が当事者意識で感染防止の具体的行動をとることが大切と思います。

鈴の音市の中止

自粛が何とか収まっても、三重県、松阪内では、多方面の、特に名古屋、大阪方面からの来訪者をバイ菌保持者のようなイメージを持っているようです。仲間だけでいたい、他を受け入れたくないという、昔からの意識が、こんなときに特に現れているみたいで、他府県からの参加者が参加しにくいように思います。

・他県で合唱でクラスター発生しているので活動再開が難しい。が高齢者が多いので再開には注意を要するが長く活動中止で活動意欲が停滞する事を懸念される。
・文化活動が後退しないように行政支援してほしい。

65才以上を守る活動の実践、意識向上

感染が発生した際に感染者以外の利用者を一時的に預かってもらえるような施設同士の連携と情報共有のしくみが必要

全体をコーディネート出来る組織
行政とNPOの合併団体

地域の人、店を大切に。利用する。地域で物がまにあうようにする。

ただでさえ近所との交流が減少しつつある現状であるが、更にコロナウイルスで人との接触が少なくなっている。

仮にコロナが終息して経済は回復したとしても、人との交流が回復するのは経済以上に時間を要すると思う。

緊急事態宣言が解除された今、地域のマンパワーを復活させるようなコミュニティ活動（大勢が無理なら、自治会単位よりもっと小さな隣組単位で）ができないだろうか？

地域の掃除でも構わない。

（感染対策に気を使いつつ）人との交流する機会を早くから進めていくことが必要であると思われる。

学童をしているNPO、福祉サービスをしているNPO、介護系支援をしているNPO、負担が大きいと思います。その辺りに、寄り添える支援が必要かと思います。

ネットで気軽に参加出来る活動

飲食店の支援（例：市役所から届いたテイクアウト商品券）だけでなく他の業種への支援もあるべきだと思う（衣料品店など、どこでも使える商品券だったらよかった）

経済活動の回復

・情報共有

あらゆる情報が SNS に偏重しており、ネット環境のない方、高齢者に届いてない。

新型コロナウイルス感染拡大の事態が一日も早く終息しあらゆる活動が今まで通り出来る事を望みます。

健康管理（日頃からの免疫力アップなど）を含んだ学習や実践活動

幸い三重県では新型コロナウイルスの感染者が少なかったのでホッとしていますが、まだまだ気が抜けないと思っています。
従来のように毎月例会を開けるようになるのはいつか？
もうしばらく様子を見たいと考えています。

- ・今後、コロナの第二波・第三波が来た時にも、安心して医療が受けられるような体制。
- ・教育や保育・福祉においても、今回の経験を活かせる体制づくり
- ・緊急事態宣言の最中に大きな災害が起こり、避難所生活をしないとイケない場合を想定して、その体制づくり

三重県人らしく、周りの方々に優しく、自分の身は自分で守る、じっと待つ。伊勢神宮がある三重県だから、全国の手本になりましょう。

そう感じるのは自分だけかもしれませんが、松阪市の市民活動の特長でもあった、人と人のつながり、市民活動団体どうしのつながりがここ数年間で希薄になったと思います。今回の状況を機に、つながりを通して、もっとお互いが支え合いながら、失ったものを回復し、初心に戻って市民活動を行えたらと思います。

新しい生活スタイルへの移行

- ・学生中心の野外活動の早期の動きを望み、それに準じた経済と人の動き（高校野球、サッカー、フルマラソン等）の実施
- ・文化行事は三密になりやすい。（室内活動）

オンラインで会議やメンバーとのコミュニケーションをとりたいが、詳しい者がいない。オンラインに関する初心者向けの情報や、やってみて出来ない時に相談できる場所。

高齢者や障がい者など社会的弱者のもとに、正しい情報を平等に届け支援する

市民活動を止めないために、IT 技術を応用したオンラインによるコミュニティ活動の実施について検討を行う。

単にコミュニティ単独では無く、コミュニティ間で相互に援助することで、コミュニティの活動を支援する仕組みも必要かもしれません。

特に、我々のような IT 技術をもって地域活性化を行うことを目的としている団体としては、他のコミュニティを如何に支援できるかを検討することも必要かも知れません。

そういった時、支援を求めるコミュニティと支援ができるコミュニティとを繋げる役割が何処かで出来ると良いと思いますが如何でしょうか？

すべて努力

我々友の会は武四郎の顕彰と記念館行事への協力をすると併せて友の会の事業計画の推進に努めている。従って友の会が発足から現在までの経過を 18 ページにまとめた冊子を発行して会員に歴史をわかって貰い、今以上に感心をもって頂く *役員会などでは消毒液の設置

災害時に必要な地域連携、特に独居高齢者、高齢者のみの所帯及び助けを必要とする方の掌握と地域ごとの対策
災害時に活動できる緒団体との活動センター主導の協議会の設立

気のゆるみのひきしめ

室内にすることが多いので、ゴミ出しや、当番の時はできるだけ声かけをしています（マスクをして!!）年配の方が多いので、気になります。

個人が正しく、この新型コロナウイルスを知って、正しく恐怖感を抱いて新しい生活様式に慣れていく事が大切。

経済を回す事が大切。異業種交流によって連携し助け合い協力して世の中の不平等を少しでも緩和する事。地方の小さい町だから団結心も固いのでは、、、頼れる力強いリーダーがほしい。そのリーダーとなる人物が市を動かして、うまくマッチングできれば等と思います。市長や市役所の方々も毎日お疲れかと思っ、ありがたく感謝してます。

高齢者と若い世代を融合させる町作り。民間のバイタリティを積極的に活用する。

“自粛”のため経済が危機的な状況となり、閉店、失職などたいへんな事態がどんどん進行している。当フードバンク松阪への緊急の物資（食料）依頼は日に日に増えている。「所持金が一円もない」「食べる物が全くない」という方たちが、どこでも訴えられるように、気楽にかけ込める場所が街のあちこちにできれば・・・と思う。まさに未曾有の事態なのだから。

コロナが消えること。。。